

2023年3月期 決算説明資料

2023年5月10日
北陸電気工業株式会社
(証券コード: 6989)

- 1. 2022年度 通期業績報告(2023年3月期)

- 2. 2023年度 通期業績予想(2024年3月期)

- 3. 中長期ビジョン達成に向けた取組み(概要)

➤ 1. 2022年度 通期業績報告(2023年3月期)

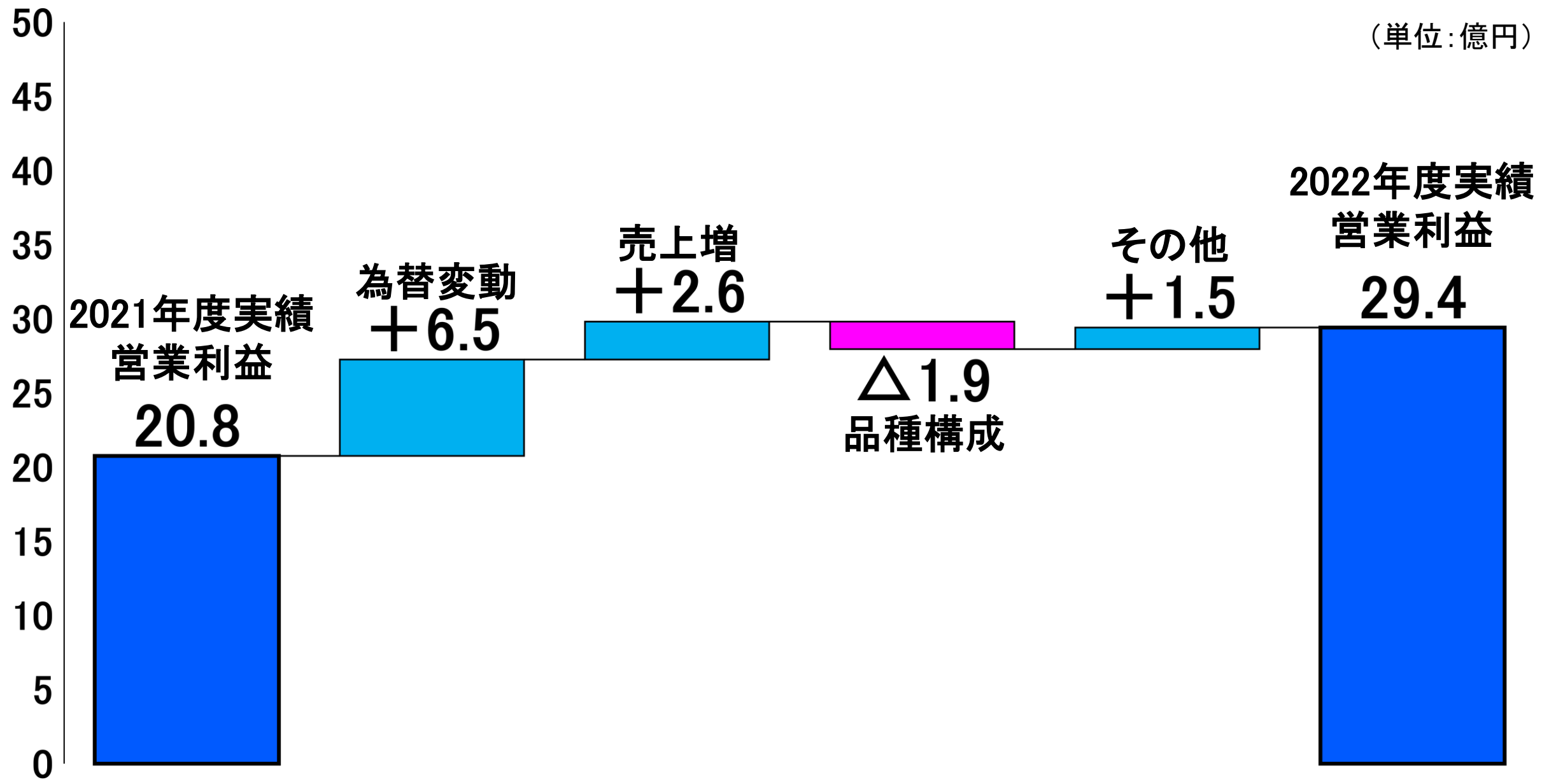
- 業績概要
- 営業利益の増減要因(対前年実績)
- 製品別売上高
- 市場別売上高
- 貸借対照表
- キャッシュ・フロー

- 売上高 454.6億円 前年比 +50.1億円 自動車関連向けを中心に大きく増加
- 営業利益 29.4億円 前年比 +8.7億円
- 経常利益は、円安による為替益 5.2億円を計上したことにより増加
- 親会社株主に帰属する純利益は、顧客の民事再生手続き開始の申し立てに伴う取引先関連事業損失20億円を特別損失に計上したことにより大きく減少

(単位:億円)

	2021年度 通期実績	2022年度 通期実績	前年比	
			増減	%
売上高	404.5	454.6	+50.1	+12.4
営業利益	20.8	29.4	+8.7	+41.7
営業利益率	5.1%	6.5%	—	—
経常利益	25.5	35.8	+10.3	+40.6
親会社株主に帰属する当期純利益	19.5	6.5	▲13.0	▲66.8
為替レート(期末) 1US\$ = 円	122.39	133.53	—	—

営業利益の増減要因(対前年実績)

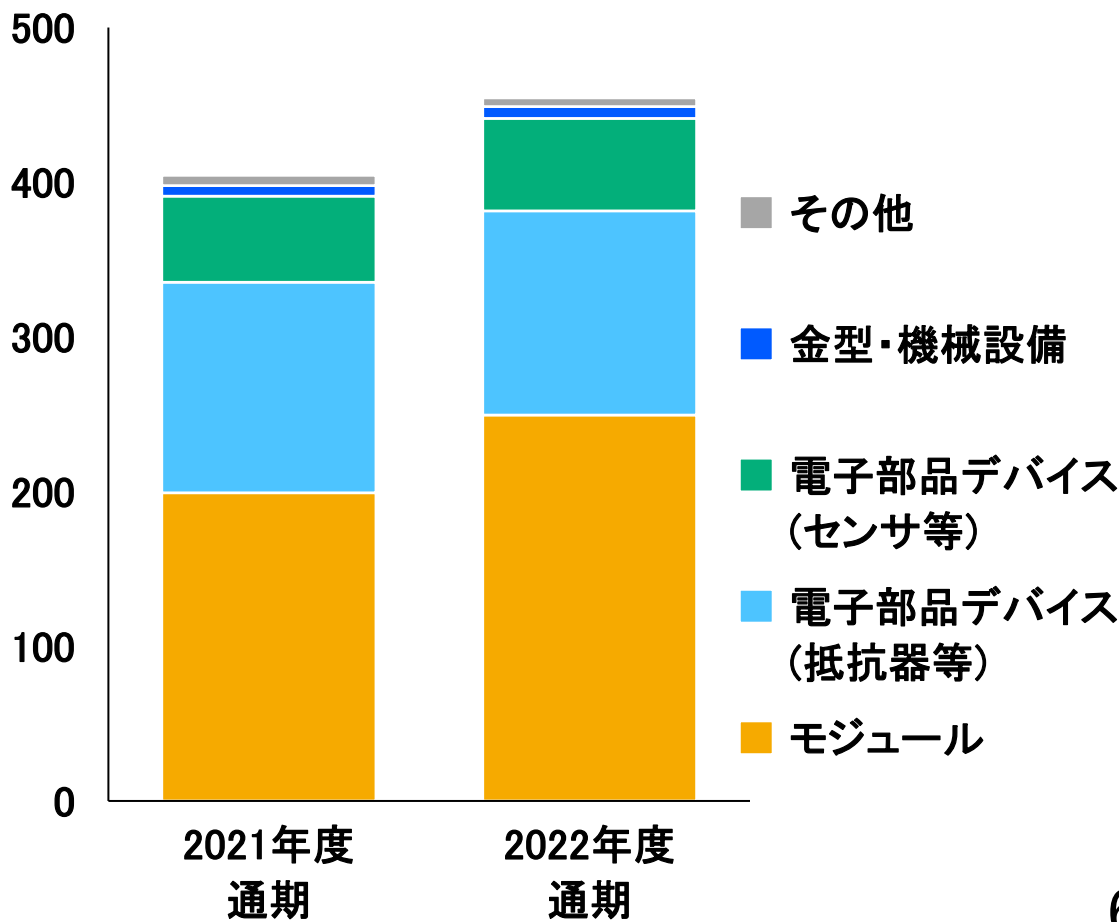


➤ 自動車向けモジュールが大きく伸長

モジュール 売上高 249.5億円 前年比 +50.2億円
電子部品デバイス 売上高 191.8億円 前年比 ±0億円

(単位: 億円)

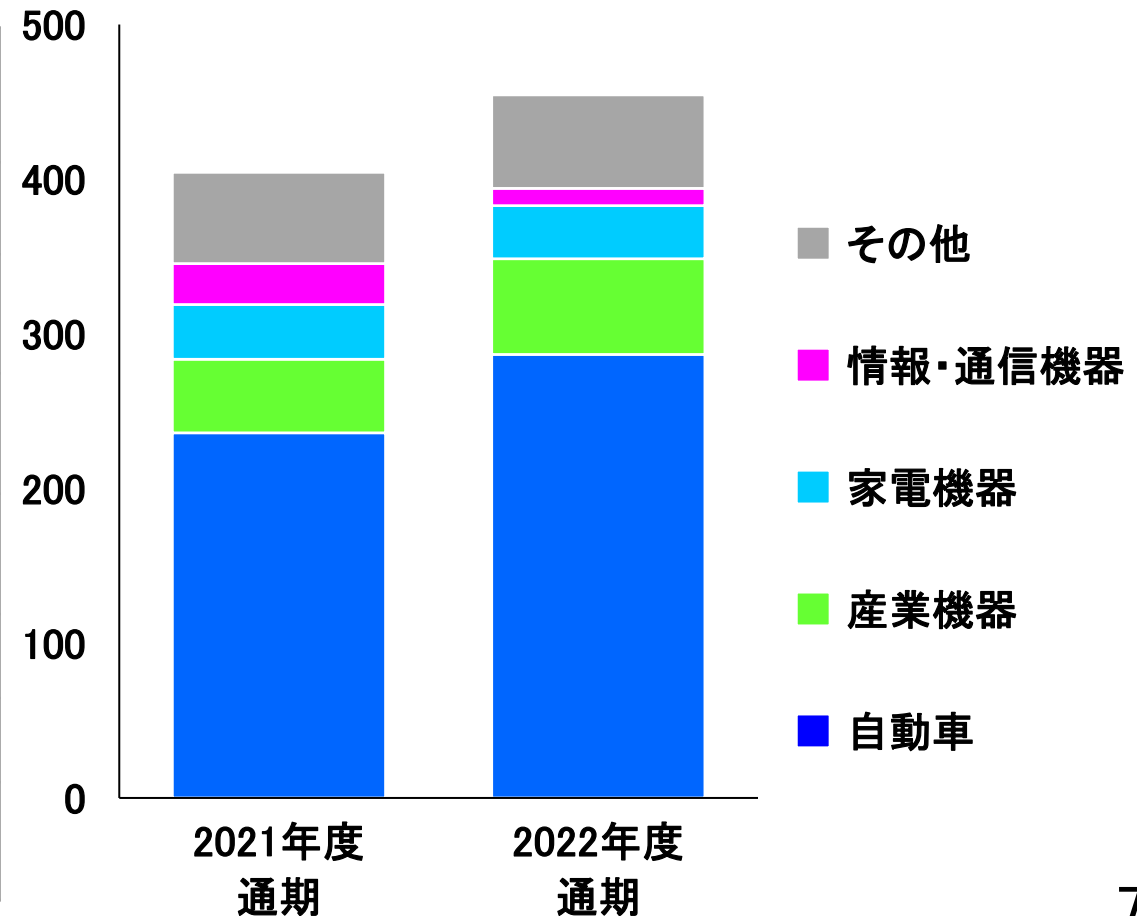
	2021年度 通期		2022年度 通期		前年比	
	実績	%	実績	%	増減	%
モジュール	199.3	49.3	249.5	54.9	+50.2	+25.2
電子部品デバイス (抵抗器等)	136.0	33.6	131.9	29.0	▲4.1	▲3.0
電子部品デバイス (センサ等)	55.8	13.8	59.9	13.2	+4.1	+7.3
金型・機械設備	6.8	1.7	7.6	1.7	+0.8	+12.2
その他	6.6	1.6	5.6	1.2	▲1.0	▲14.7
合計	404.5	100.0	454.6	100.0	+50.1	+12.4



- 自動車 売上高 286.7億円 前年比 +50.6億円
中国の都市封鎖および半導体の供給制約継続の影響を受けたものの全体としては好調
- 情報・通信機器 売上高 11.2億円 前年比 ▲15.2億円
巣ごもり需要の一巡により需要低迷

(単位:億円)

	2021年度 通期		2022年度 通期		前年比	
	実績	%	実績	%	増減	%
自動車	236.1	58.4	286.7	63.1	+50.6	+21.4
産業機器	47.6	11.8	61.9	13.6	+14.3	+30.0
家電機器	35.4	8.8	34.3	7.5	▲1.1	▲3.1
情報・通信機器	26.4	6.5	11.2	2.5	▲15.2	▲57.7
その他	59.0	14.6	60.5	13.3	+1.5	+2.5
合計	404.5	100.0	454.6	100.0	+50.1	+12.4



貸借対照表

- 総資産は、現金及び預金や棚卸資産の増加を主因に2,020百万円の増加
- 負債は、借入金の増加を主因に863百万円の増加

(単位:百万円)

	2021年度	2022年度	増減
流動資産	27,858	30,132	+2,273
現金及び預金	7,006	8,052	+1,046
受取手形及び売掛金	11,065	10,064	△1,001
棚卸資産	7,917	10,021	+2,103
固定資産	13,100	12,847	△253
資産合計	40,959	42,979	+2,020
流動負債	14,827	15,803	+976
支払手形及び買掛金	7,491	7,737	+245
短期借入金	4,617	5,690	+1,073
固定負債	10,181	10,068	△112
負債合計	25,008	25,872	+863
純資産合計	15,950	17,107	+1,157
負債・純資産合計	40,959	42,979	+2,020

・部材調達難に伴う部材確保

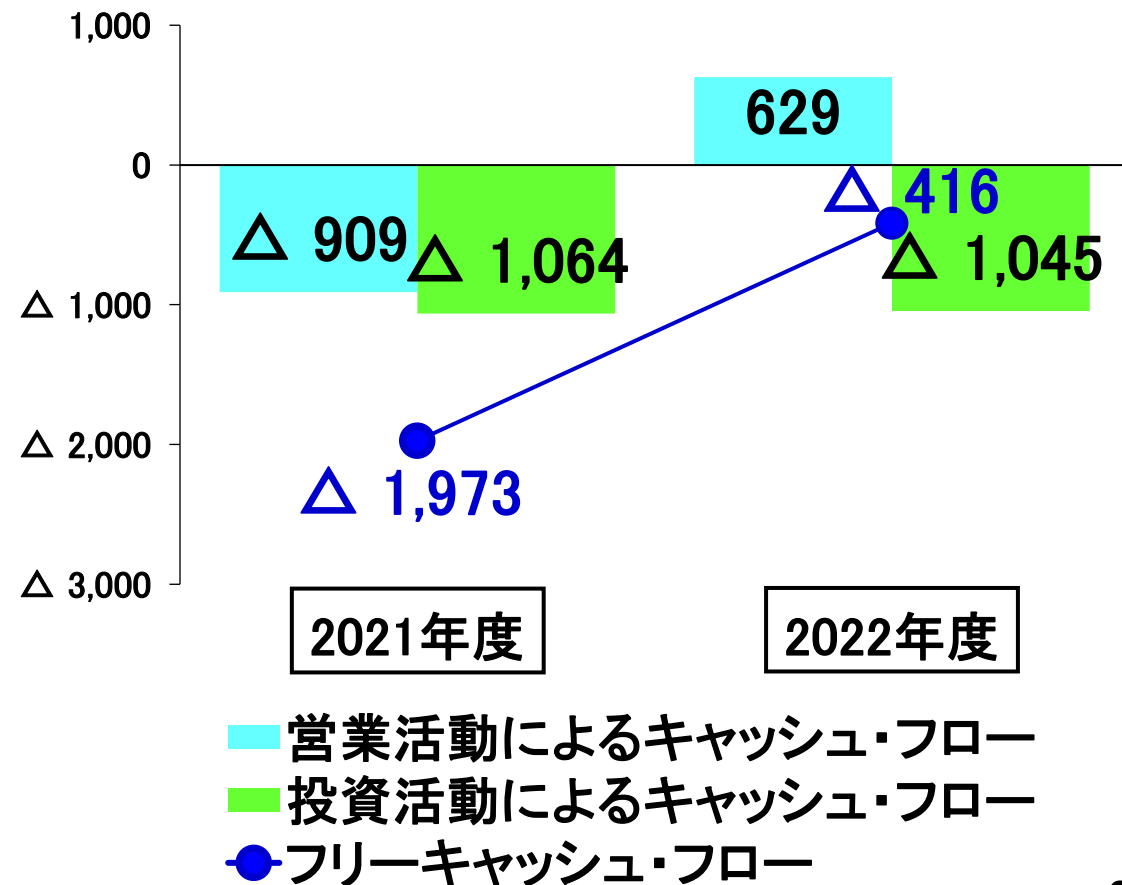
- 純資産は、1,157百万円の増加

・親会社株主に帰属する
 当期純利益 +647
 ・剰余金の配当 △376
 ・アジア通貨高円安による
 為替換算調整勘定 +726

- 営業CF 利益及び減価償却等により増加
- 投資活動CF 主に固定資産の取得による支出
- 財務活動CF 主に借入金の純増

(単位:百万円)

	2021年度	2022年度	増減
営業活動による キャッシュ・フロー	△909	629	+1,538
投資活動による キャッシュ・フロー	△1,064	△1,045	+19
フリーキャッシュ フロー	△1,973	△416	+1,557
財務活動による キャッシュ・フロー	23	773	+749
現金及び現金同等物 の期末残高	5,404	6,253	+848



▶ 2. 2023年度 通期業績予想(2024年3月期)

- 事業環境
- 業績予想
- 営業利益の増減要因(対前年実績)
- 製品別売上高
- 市場別売上高
- 設備投資額/減価償却費/研究開発費
- 株主還元

2022年度

◇ 世界経済

- ・エネルギー価格高騰や為替変動、インフレの進行など、不安定な経済環境が継続
- ・各国インフレ進行に対する金融政策、欧州におけるエネルギー供給懸念、中国ゼロコロナ政策と規制緩和による経済活動への影響など、景気回復は停滞基調

◇ エレクトロニクス市場

- ・自動車生産は、中国都市封鎖や半導体供給制約の影響により伸び悩み
- ・年後半はスマホやパソコンの需要減など、民生機器の生産は弱含みで推移

2023年度

◇ エレクトロニクス市場

- ・前半：スマホやパソコンなどの民生機器の需要低迷、半導体設備投資の一服など、厳しい需要動向が続く
- ・後半：半導体不足の緩和による自動車生産の回復、xEV市場の成長加速、IT機器の需要回復などを見込む

➤ 年前半は厳しい市況を想定しているが、半導体不足の緩和による自動車生産の回復や5G、脱炭素関連での需要増大などにより引き続き電子部品需要の増加が見込まれる。

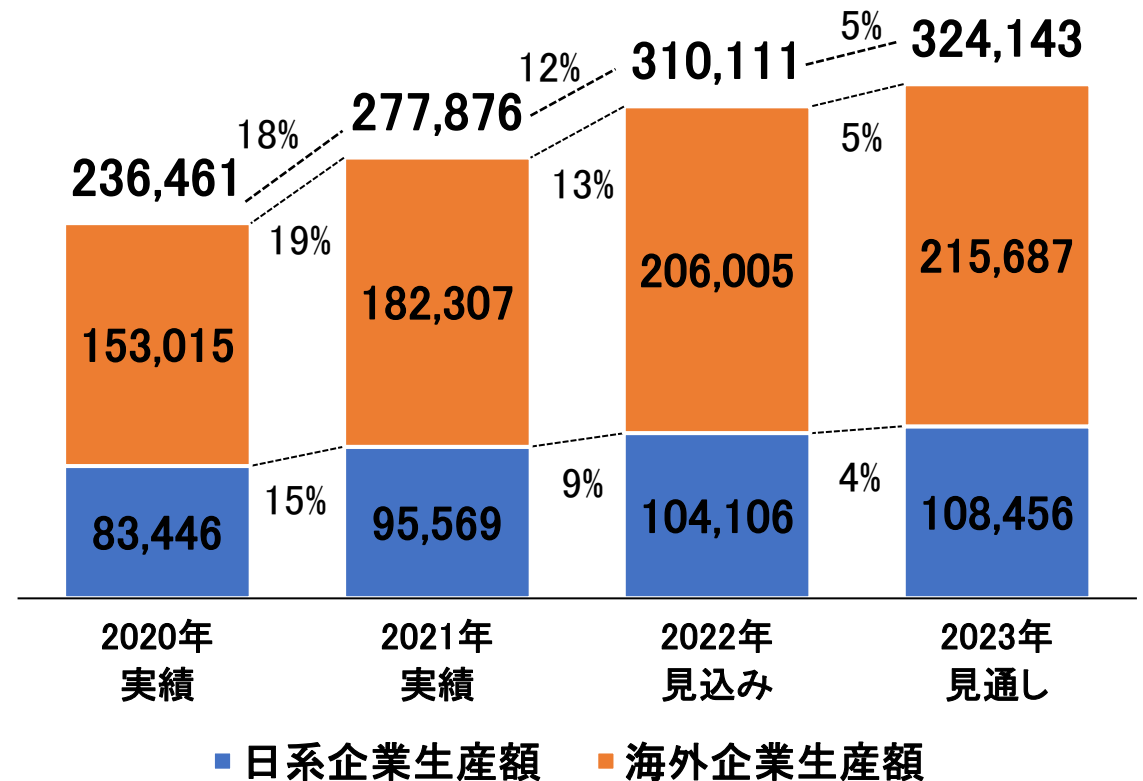
- ・年前半は中国スマホの調整長期化や巣ごもり特需の反動などにより民生機器向け需要は軟調推移
- ・自動車向けは半導体不足の緩和による生産回復やxEV、ADAS/自動運転技術の高度化、コネクテッド化に伴う部品搭載点数の増加などにより需要増
- ・5G関連の需要増大や脱炭素、省エネ関連での新たな需要創出 など

引き続き成長継続が見込まれる

**2023年電子部品の世界生産見通し
324,143億円、前年比 5%**

【電子部品の世界生産見通し】

(単位: 億円、対前年比伸び率: %)



出典: JEITA「2022.12 電子情報産業の世界生産見通し」

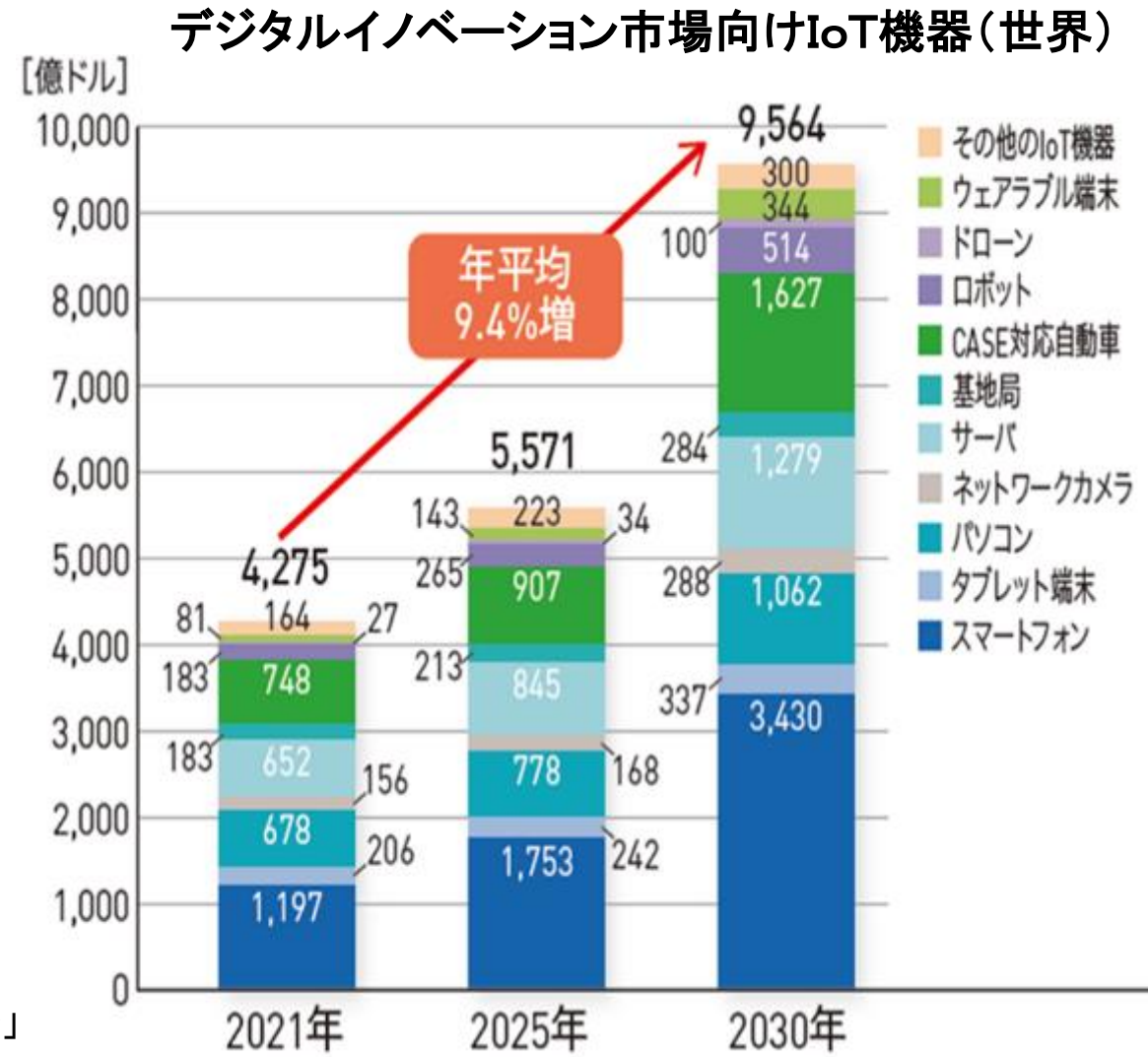
➤ DX市場は、デジタルイノベーション市場を中心にIoT機器の伸長が続く

IoT機器の需要額見通し(世界)

(単位: 億ドル)

	2021年	2025年	2030年
IoT機器	15,927	16,368	20,410
内、デジタルイノベーション市場	4,275	5,571	9,564

※デジタルイノベーション市場
 WEB3.0/ブロックチェーン、量子コンピューティング、
 メタバース、クラウド/エッジコンピューティング、
 5G/Byond5G(6G)、AI・データ解析、
 サイバーセキュリティ



出典: JEITA「2022.12 電子情報産業の世界生産見通し 注目分野に関する動向調査」

➤ 売上高 436.0億円 前年比 ▲18.6億円

年前半は、顧客在庫調整や民生機器の電子部品需要の低迷が続く見通し

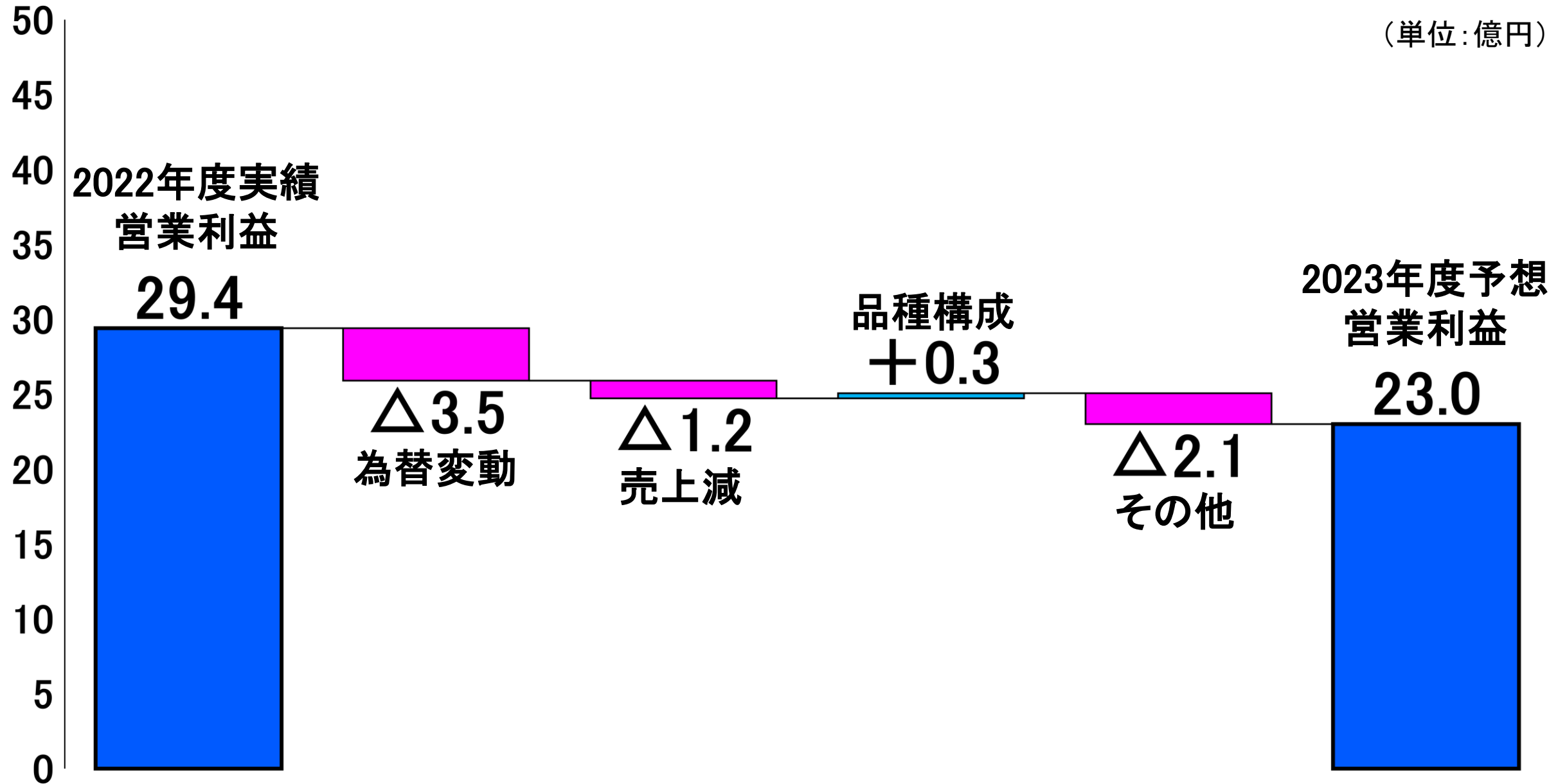
年後半にかけて、自動車生産の回復や民生機器の需要回復を見込む

➤ 営業利益 23.0億円 前年比 ▲6.4億円

(単位:億円)

	2022年度 通期実績	2023年度 通期予想	前年比	
			増減	%
売上高	454.6	436.0	▲18.6	▲4.1
営業利益	29.4	23.0	▲6.4	▲21.8
営業利益率	6.5%	5.3%	—	—
経常利益	35.8	22.0	▲13.8	▲38.6
親会社株主に帰属する当期純利益	6.5	17.0	+10.5	+162.5
為替レート(期末) 1US\$ = 円	133.53	130.00	—	—

営業利益の増減要因(対前年実績)

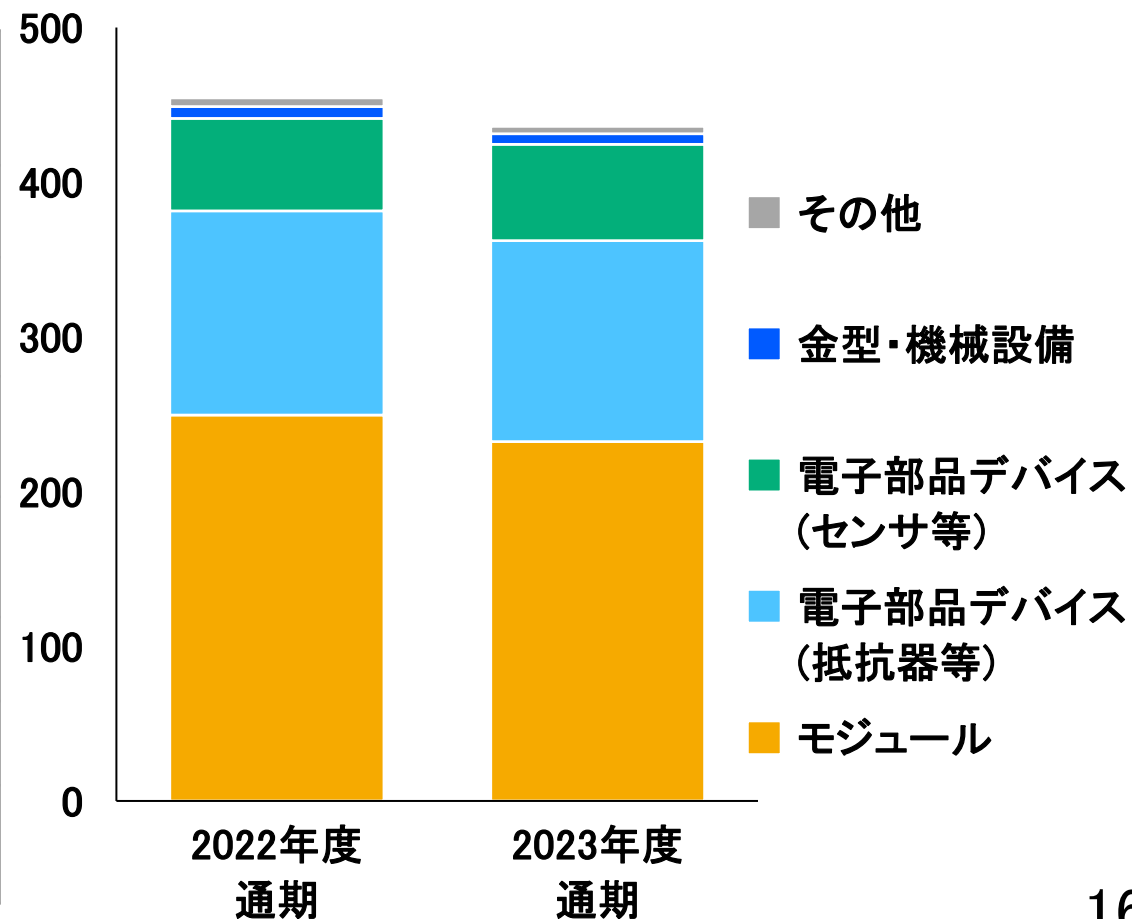


➤ 主に産業機器向けモジュールが減少

モジュール 売上高 232.3億円 前年比 ▲17.2億円
電子部品デバイス 売上高 192.3億円 前年比 +0.5億円

(単位: 億円)

	2022年度 通期		2023年度 通期		前年比	
	実績	%	実績	%	増減	%
モジュール	249.5	54.9	232.3	53.3	▲17.2	▲6.9
電子部品デバイス (抵抗器等)	131.9	29.0	130.0	29.8	▲1.9	▲1.5
電子部品デバイス (センサ等)	59.9	13.2	62.3	14.3	+2.4	+4.1
金型・機械設備	7.6	1.7	6.8	1.6	▲0.8	▲10.9
その他	5.6	1.2	4.6	1.1	▲1.0	▲18.3
合計	454.6	100.0	436.0	100.0	▲18.6	▲4.1



➤ 自動車 売上高 284.0億円 前年比 ▲2.7億円

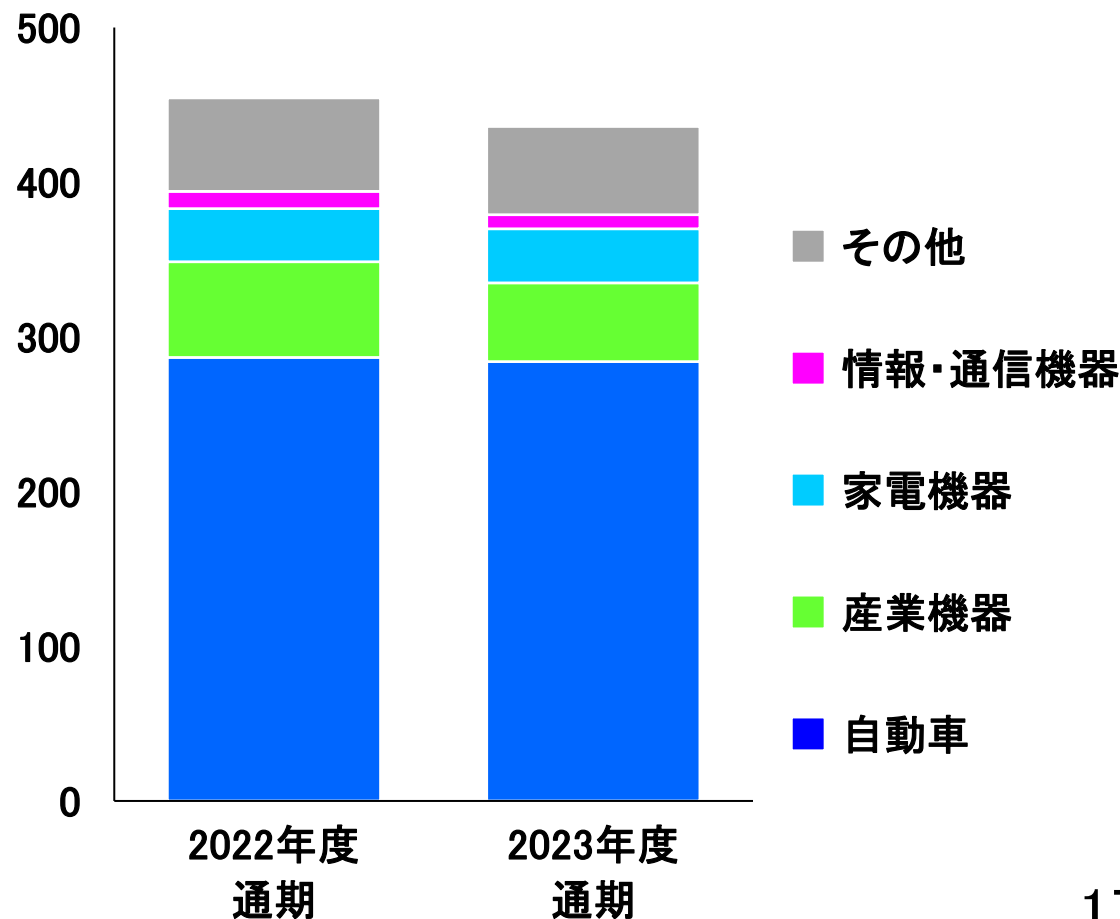
年前半は顧客在庫調整を想定、年後半にかけて半導体不足の緩和に伴う生産回復を見込む

➤ 産業機器 売上高 51.0億円 前年比 ▲10.9億円

特定顧客向けモジュールの機種終息による減少

(単位:億円)

	2022年度 通期		2023年度 通期		前年比	
	実績	%	実績	%	増減	%
自動車	286.7	63.1	284.0	65.1	▲2.7	▲1.0
産業機器	61.9	13.6	51.0	11.7	▲10.9	▲17.6
家電機器	34.3	7.5	35.0	8.0	+0.7	+2.0
情報・通信機器	11.2	2.5	9.0	2.1	▲2.2	▲19.4
その他	60.5	13.3	57.0	13.1	▲3.5	▲5.8
合計	454.6	100.0	436.0	100.0	▲18.6	▲4.1



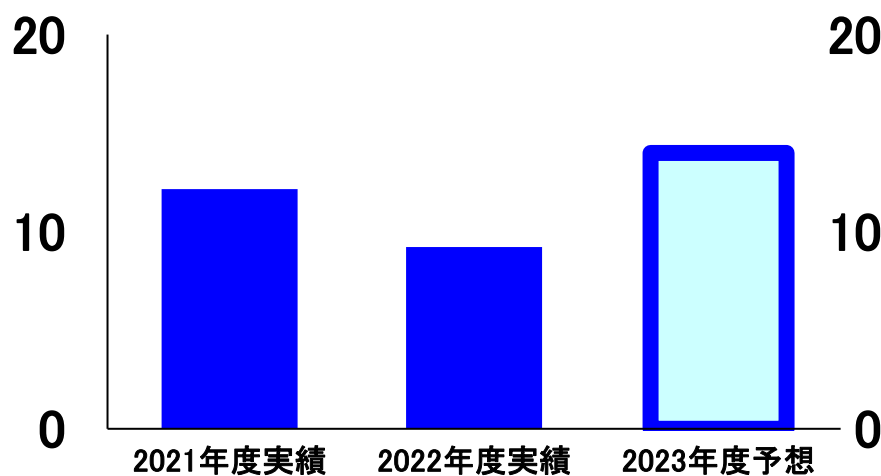
設備投資額/減価償却費/研究開発費

(単位:億円)

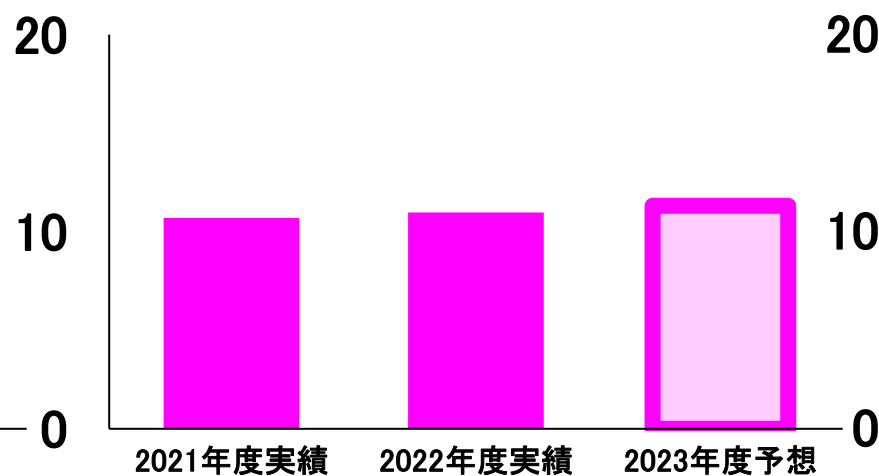
	2021年度 通期実績	2022年度 通期実績	2023年度 通期予想	前年比	
				増減	%
設備投資額	12.2	9.2	14.0	+4.8	+51.8
減価償却費	10.7	11.0	11.3	+0.3	+3.1
研究開発費	16.2	14.3	14.6	+0.3	+1.9

(単位:億円)

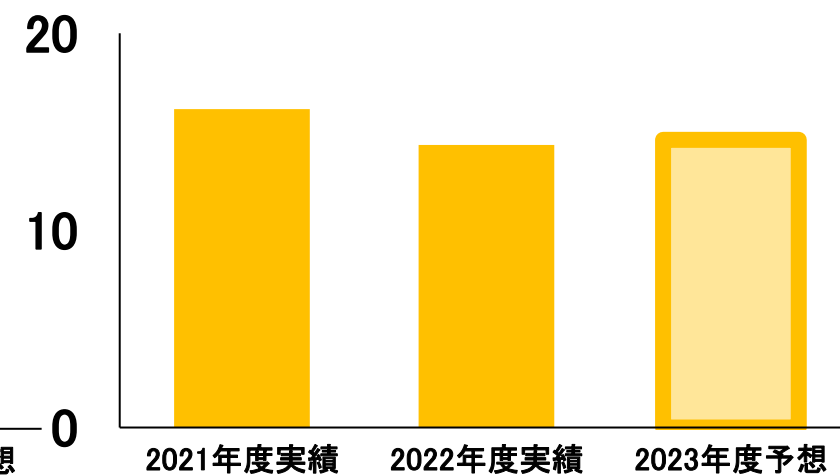
設備投資額



減価償却費



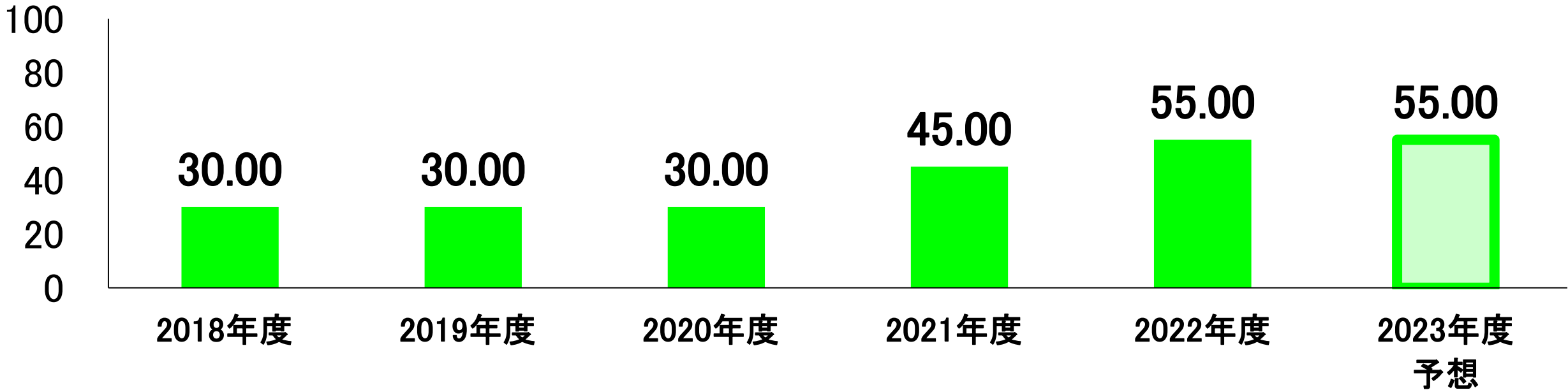
研究開発費



■基本方針 安定配当の継続と業績に裏付けられた成果の配分

【1株当たりの年間配当金】

(単位:円)



	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度 予想
1株当たりの年間配当金 (円)	30.00	30.00	30.00	45.00	55.00	55.00
1株当たりの当期純利益 (円)	92.70	79.24	53.47	232.89	77.36	203.07

▶ 3. 中長期ビジョン達成に向けた取組み(概要)

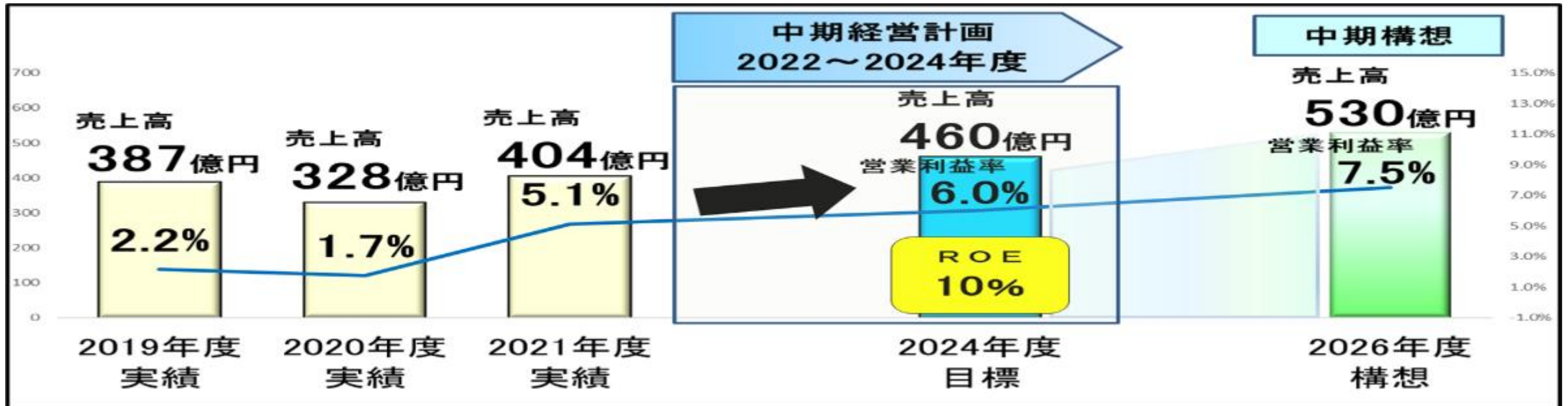
- 中計経営計画2024: Plan2024 概要
- 中期経営計画2024進捗① 経営目標
- 中期経営計画2024進捗② 経営・事業戦略
- 2024年度 売上目標達成に向けた取組み
- 新製品 産業車両向けサブスク型 IoTサービス
- 社会課題解決に向けた製品開発
- サステナビリティへの取組み
- カーボンニュートラルへの取組み

【中期経営基本方針】

2021年度までは事業の「新・選択と集中」活動を推進し事業基盤の強化に努めてまいりました。

2022年度からは、これまでの活動をベースに、更にサステナビリティを意識した事業展開や様々な社会環境変化(トランスフォーメーション)への積極対応で事業のレジリエンスをより強化し、企業価値を一段と高めてまいります。

【経営成績の実績と将来目標】



中期経営計画2024進捗① 経営目標

- 2022年度は、自動車関連向けを中心に大きく増加、円安による増収増益効果あり
- 2023年度業績予想 売上高 436億円、営業利益 23億円、営業利益率 5.3%
- 最終年度2024年度の目標達成に向けて「経営・事業戦略」を着実に実行していく

	2022年度		2023年度	2024年度	2026年度
	期初計画	実績	予想	目標	構想
売上高	430億円	455億円	436億円	460億円	530億円
営業利益	23億円	29億円	23億円	28億円	40億円
営業利益率	5.3%	6.5%	5.3%	6.0%	7.5%
ROE	9.1%	3.9%	9.6%	10.0%	—

期中平均為替レート
1US\$ = 円

118.00

135.58

130.00

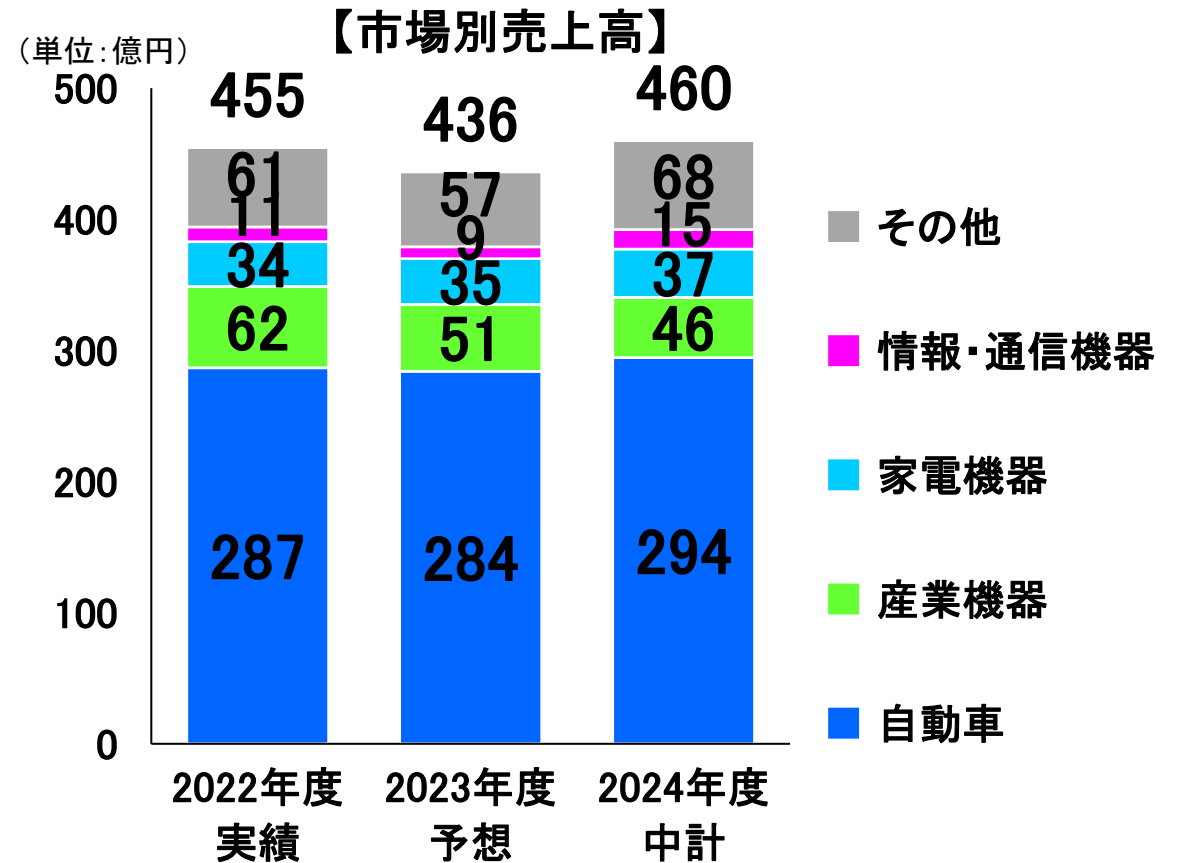
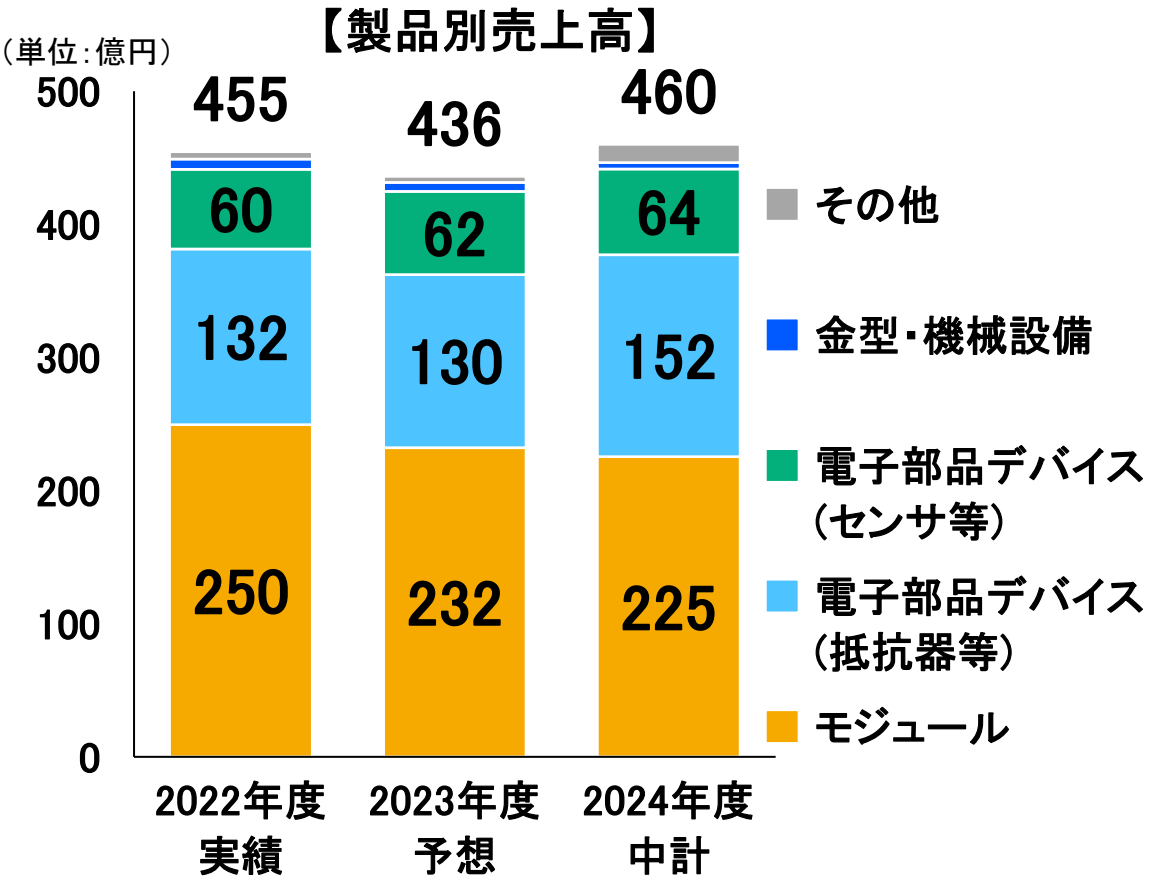
- 経営目標である2024年度売上高 460億円、営業利益率 6%、ROE 10%の達成を確実なものにするための取組みを推進中。

経営・事業戦略	取組状況
コア事業の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・新技術(新製品)、新顧客、新分野への「3N」販売拡大活動を推進中
	<ul style="list-style-type: none"> ・アセアンの生産体制を強化 拡充:タイ、マレーシア 進出検討:インドネシア、ベトナム
マーケティング強化と事業推進	<ul style="list-style-type: none"> ・戦略市場マーケティング部を新設し、活動強化
	<ul style="list-style-type: none"> ・脱炭素、EV化やDX関連の製品開発を推進中
経営基盤の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス体制、リスクマネジメント体制を強化
	<ul style="list-style-type: none"> ・サステナビリティ委員会を新設、重要課題への取組み加速

2024年度 売上目標達成に向けた取組み

- 主力製品は、自動車、産業機器などの成長分野を中心にバランスよく伸長展開
- 重要トレンド市場である自動車市場では、環境対策車向けの売上比率を拡大

2022年度 63% (5%) ➡ 2023年度 65% (7%) ➡ 2024年度 64% (8%) ※()内は環境対策車



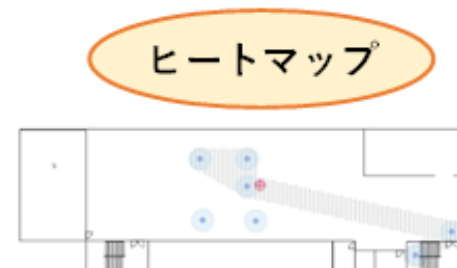
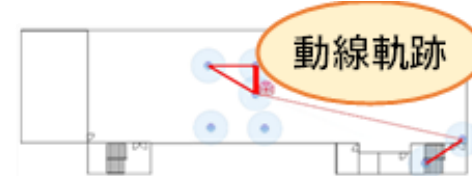
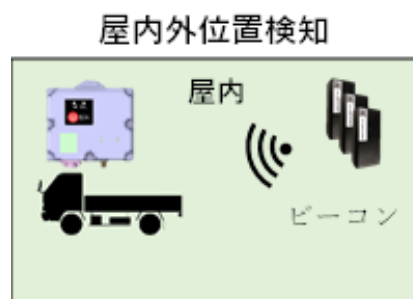
▶ 産業車両の位置や稼働情報、危険運転を検知するサブスク型のIoTサービス

クラウドを利用したIoTのアプリサービス

《主な機能》

1. 位置情報の取得
2. 稼働情報の取得
3. 危険運転操作情報の取得
4. 緊急通報による通知監視
5. 1～4の履歴情報等の取得(クラウドに蓄積)

【 産業車両専用端末 】



ヤマシスト(YAMAssist)



- ・登山者の位置、通過情報を検知
- ・事故や災害時にスマホ圏外でも救助を求めたり、検索が可能

無線通信ネットワークシステム

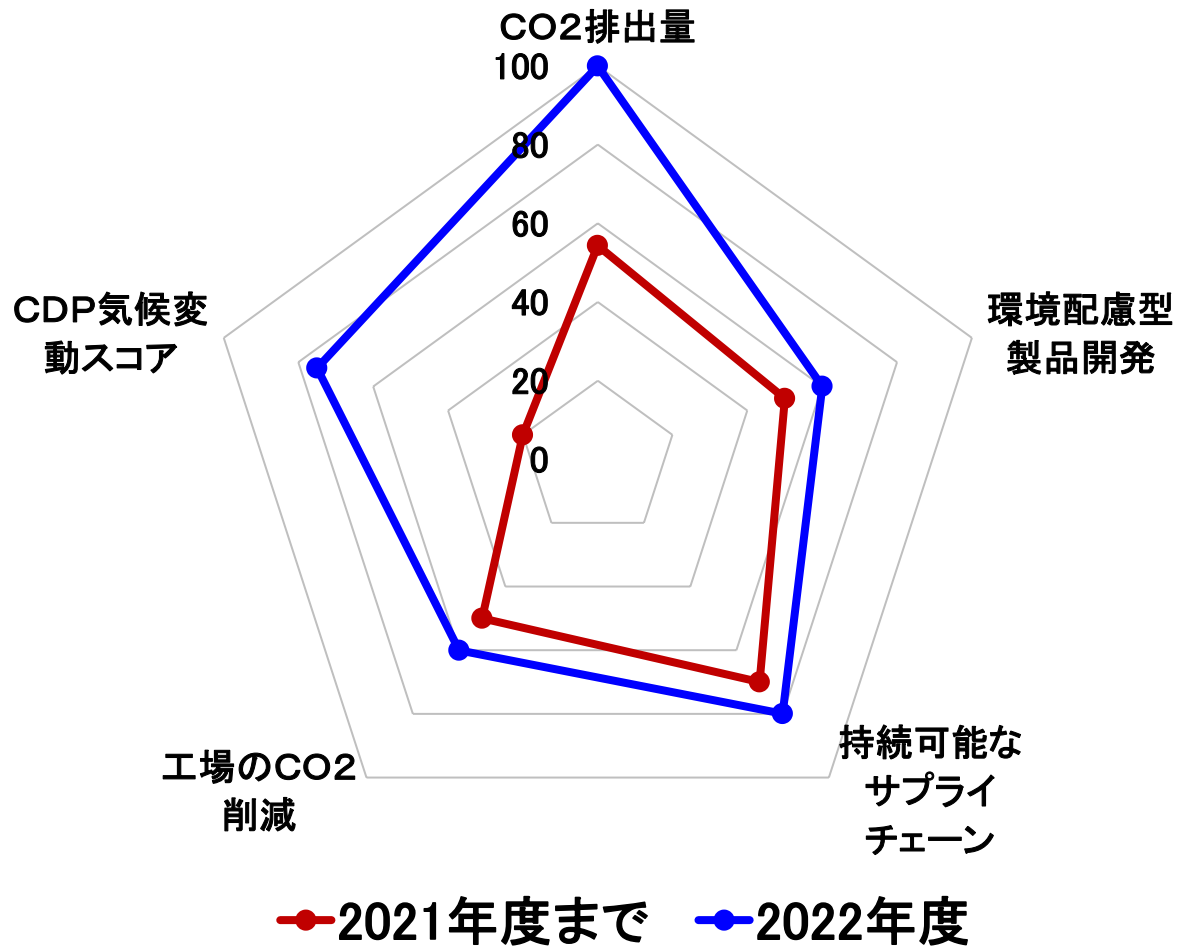


- ・見守り、農業・気象観測などをサポート
- ・太陽電池と429MHz特定小電力無線モジュール搭載
- ・各種センシングに適したコンパクト設計

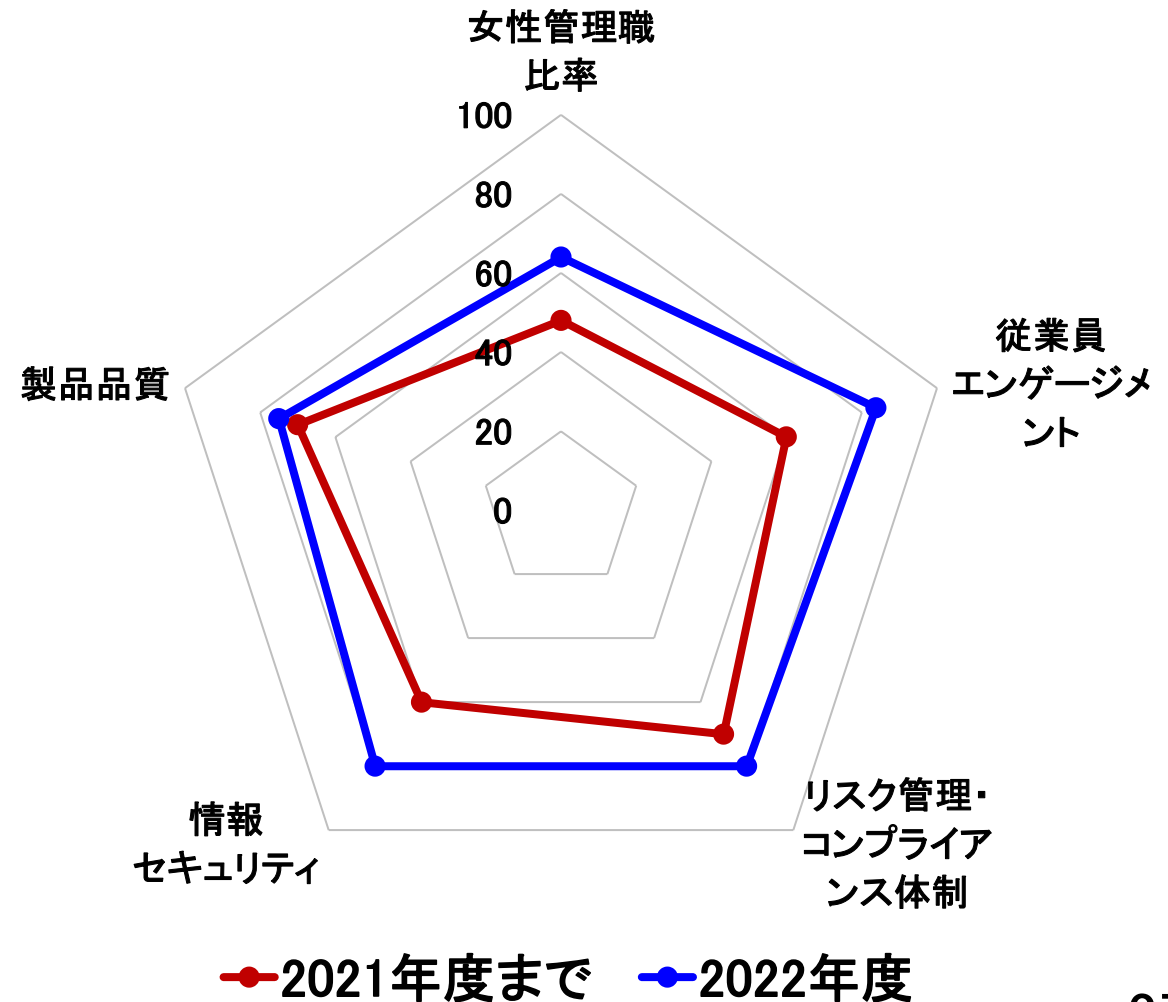
社会課題解決に寄与するセンシングソリューション製品の開発加速

➤ 当社における重要課題を特定の上、サステナビリティへの取り組みを加速

環境(E)



社会(S)、ガバナンス(G)



目標：2030年度CO₂排出量 46%削減（2017年度実績比）

■取組み状況

①再生可能エネルギーの導入

- ・国内拠点は、2022年7月から再生可能エネルギーへ一部切替え済。
CO₂排出量 2022年度実績 57%削減
- ・課題は、海外拠点を含めたグローバルでの目標達成であり、中長期的テーマとして検討中。



かがやき
GREEN
証明書

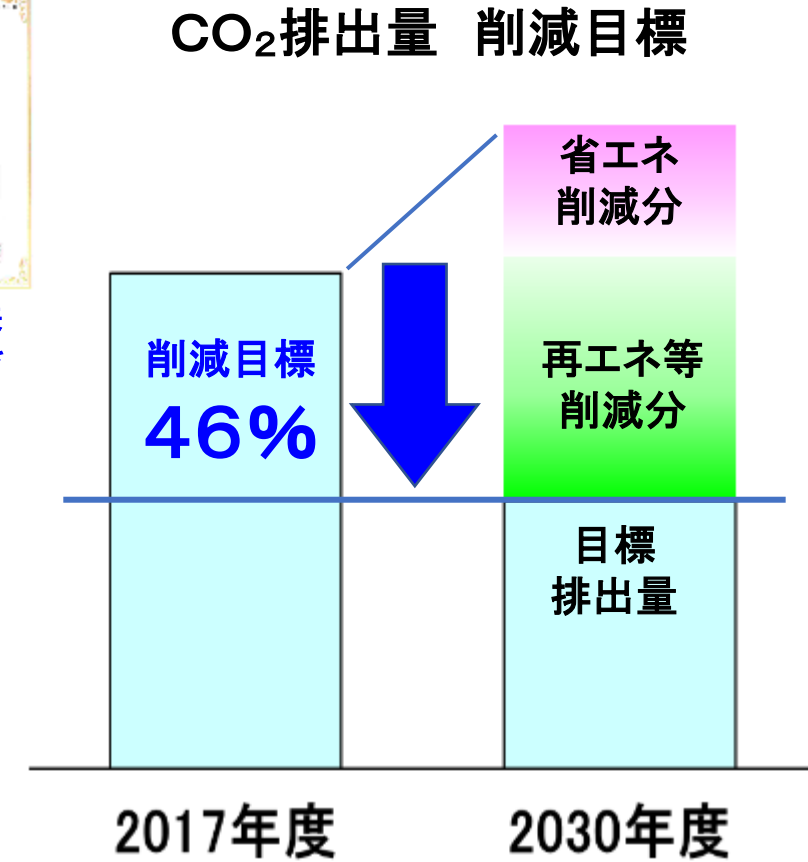
とやま未来
創生でんき
証明書



朝日電子(株)
太陽光発電システム

②省エネ取組みを継続推進中

- ・生産設備の電力削減（生産効率化、製造条件見直し）
- ・省エネ設備機器への更新、変圧器の統合・更新 など



2050年カーボンニュートラルの実現に向けた取組みを段階的に進めていく

北陸電気工業株式会社

本資料に記載されている業績見通しにつきましては、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて当社が作成したものでありますが、経済環境や変動の激しいエレクトロニクス市場動向の変化など、様々な要因により実際の業績とは大きく異なる結果となる可能性があります。

そのため、本資料の業績見通しや目標数値等に全面的に依拠することはお控えくださるようお願いいたします。なお、本資料の利用の結果生じ得るいかなる損失に関しても、当社は一切責任を負いません。